

# 令和元年度第1回天童市総合教育会議議事録

総務部総務課

- 1 日時 令和元年6月25日(火)  
午前9時25分から午前10時17分まで
- 2 場所 本庁舎「3階会議室」
- 3 出席者
  - (1) 出席構成員  
天童市長 山本信治                      教育長 相澤一彦  
教育委員 井上正信                      教育委員 本田孝之  
教育委員 村山晴香                      教育委員 松村昌子
  - (2) 説明のため出席した者の職氏名  
教育次長 大内淳一                      学校給食センター所長 高橋清見  
学校教育課長 佐藤亨                      生涯学習課長 熊澤輝  
教育総務課課長補佐兼庶務係長 横倉文男
  - (3) 事務局職員の職氏名  
総務部長 遠藤浩                      総務課長 湯村耕司  
総務課課長補佐兼行政係長 佐藤貴宏  
総務課行政係主事 佐藤穂乃佳
- 4 議事録署名員  
教育長 相澤一彦
- 5 次第
  - (1) 開会
  - (2) あいさつ
  - (3) 協議・運営事項  
ア 天童市教育大綱(第2期)の策定について  
イ その他
  - (4) 閉会

## 6 会議の内容

発言者	発言内容
佐藤課長補佐 (司会)	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>(1) 山本市長あいさつ</p> <p>(2) 相澤教育長あいさつ</p>
山本市長	<p>3 協議・調整事項</p> <p>それでは議長を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>まず、天童市総合教育会議運営要綱第4条第2項の規定により、議事録署名員を指名させていただきます。</p> <p>相澤教育長にお願いしたいと思います。</p>
相澤教育長	<p>はい。</p> <p>(1) 天童市教育大綱（第2期）の策定について</p>
山本市長	<p>それでは、「天童市教育大綱（第2期）の策定について」事務局から説明をお願いします。</p>
佐藤課長補佐、 大内教育次長	<p>(天童市教育大綱（第2期）の策定について説明)</p>
山本市長	<p>今、それぞれから説明いただきましたけれども、御意見、御質問といっても、資料に書いてありますからね。今後、この策定について、「その他」の方になってしまうかもしれませんが、いろいろな御意見をいただきながら策定していくということです。今回は説明だけということなんですけれども、こういう会議は回数が多くありませんので、日頃皆さんが思っていることも含めて、御意見としていただきたいと思っておりますので、少しフリーな形で進めさせていただきたいなと思います。どうぞ、なんでも結構でございますので、まずは今御説明したものについて、御意見があれば。</p>

相澤教育長	<p>教育大綱については、大変丁寧に練られたものを策定していただいているなど思ったところです。七総の計画に目標とか、PDCAサイクルの回るような具体的な目標もあるので、七総で大変吟味されているので、そこから丁寧に拾うということでもいいのかなど。中身については、私は何の異論もないし、これから事務局の方で吟味していただけるといいのですが、形式、スタイルで一点。大綱って崇高な、頑張るぞ、というような宣言みたいなものなので、前文の上に「本市の教育の重要性に鑑みて、まちづくりの一つの柱とする。」というような、市長さんが常日頃からおっしゃっているようなことを書いて、「崇高な目標達成のため、ここに教育大綱を定める。」というような宣言文があって、そして、趣旨と内容、計画の期間と方針、策定にあたっての考え方みたいな、1ページに書いてあることがその下にくるスタイルがかっこいいかなど、意味があるかなという感想です。</p>
山本市長	<p>他にございますか。</p>
井上委員	<p>教育というのは、行政がリードをしていくという側面と、そこに住む人々の思いを施策の中に反映するという側面がないとなかなか理解されないものになってしまうのではないかと思います。パブリックコメントを実施という文言がありますけれども、おそらくそのための配慮なのだと思いますが、本市の場合のパブリックコメントというのはいろんな意味があると思うのです。例えば、策定に関する市民の反応とか、教育に携わる方々が第2期の大綱にどういう思いを抱いているかとか。そういうものをある程度受け入れるというのもパブリックコメントの一面だと思う。具体的な、策定するに当たって、市民の意見とか、どういう風に教育施策を考慮していくかという具体的なスケジュールとか方法があればいいなと思います。そういうことを念頭に置いてやっていく必要があると思います。</p>
山本市長	<p>他にございませんか。</p>
松村委員	<p>今、井上先生からもあったのですが、素晴らしい内容の、夢のある策定だと思って聞いていたんです。私も長い間夢を</p>

	<p>もっておりまして、それはまさにここに書かれていることなんです。ゆりかごから墓場までという言葉がございすけれども、生涯学び続ける環境を保証する、整えていく努力を、市民と一体になってやっていく時代がいよいよ来たということが、すごくうれしいなと思って聞いておりました。今、教育の縦割り化、一貫教育ということが叫ばれて何年か経っておりますが、天童市でも、教育を生涯一貫性のある一つの形にしていくことも必要なのではないかなと思ってはいたのですが。例えば、岡山県に生涯大学という、岡山市と市民の方で作っている大学がありまして、検索すると出てくるんです。千葉県にも、岡山より小さいのですが、そうした大学がございまして。審議員が毎年その大学を進化させていくという形を岡山大学では採っております。それがいいということではなくて、目指すものは、人間が人間らしく、生まれたその時から亡くなるまで学び続ける喜びと、世の中のために、犯罪の防止にもなりますし、就労支援にもなります、そういう様々なことがのびのびとやっていける環境を公の方にも支援していただき、自分たちも一生懸命そのための努力をしていくという、そういう形を目指しているのかなと思ったところでしたので、具体的にどうしていくかというところで、井上先生がおっしゃったように、パブリックコメントを求めるということはよくあるんですけども、一般の方がそれをどこまで理解できるかというのがとても重要だと思うので、途中経過ですね、審議して少しずつ形を整えていくとは思いますが、市民の方たちが少しずつ分かっていくためには、回数も必要だと思いますし、伝える努力がかなり必要なんじゃないかと思うので、そういうこともやっていただきながら、具体的などころを目指していったらいいんじゃないかと思いました。</p>
山本市長	<p>ありがとうございました。実際、パブリックコメントを取りますと、実態は非常に少ない。より理解をしていただくための周知の方法とか広報の頻度とかね、今回だけでなく本当に課題なんですけど、努力して、事務方のほうでお願いしたいと思っています。他に話題はありますか。</p>
本田委員	<p>同じような話なんですけど、ここに書いていることをそのま</p>

	<p>ま推し進めていくような形になると思うんですけども、なかなか入りづらいですね。これを公表したから皆さん見てくださいといっても反応がないのは当たり前かなと思いますので、天童市としての特色とか、市民を引き付けるというか、天童市は施策の中でもこんなところをこんなふうにやりたいという、もっと目を引き付けるようなものというか、市民にも受け入れられるようなもの、目に見えるような施策を。変わったことをしろということじゃないですけど。ICTを進化させていくとかですね、教員の働き方とか、いろんな面で、ここは、と言えるようなところが盛り込まれると、入りやすいのかなと。最初に教育長が言ったように、かっこいいね、でいいと思うんですね。教育と聞いただけで一般の方は固いというイメージから入るのかなというのがありますので、こんなに素晴らしいものに関与できるんだよと、子どもたちだけでなく、自分たちも含めて、生涯教育も含めて、天童市は、というものを生み出していくんだという書き方をさせていただくのがいいのかなと思いますので、よろしくお願いします。</p>
山本市長	<p>他にございませんか。</p>
村山委員	<p>教員の勤務時間について、身近なことで申し訳ないんですけど、毎年うちの学校では学校に泊まるイベントというのをやっています、それが働き方改革とかそういう点で、先生の勤務時間的にどうなんだろうという問題がさっそく出てきて、身近だなと思ったんですけど。世の中の流れとしてあるんですけど、保護者の方にそういう風になっているんだよという理解をさせていただくということで、皆さんがおっしゃっていたように、こういう素晴らしい目標があるんだよということを、より分かりやすくしていただけたら理解を得られるのかなと思いました。</p>
山本市長	<p>他に。この間ですね、NHKだったでしょうか。麴町中学校のことは、おそらく皆さんも、教育関係の方は知っていると思うんですけども。なぜあの学校はあれだけ取り上げられるんだろうなと思ってですね。やはり従来の考え方から外れた教育の環境を作ろうとしてるんですね。それが全国的に</p>

も先生方が視察にくるということを考えますと、教育現場の何かを変えなきゃならないんだろう、変えていくべきなんだろうという強い意志のようなものがあるんだろうと思ったんですね。しかし、なかなかそうならない。そこに一人の強いリーダーシップを持った校長先生が来たことによってそういうことが可能になったということで、注目を集めているんだろうと思います。例えば、担任の先生を複数化するとかいろいろやっておりました。東根では中高一貫の学校がスタートしましたが、その教育についても、様々な課題が出ているんだろうと思うんですね。地域に根差した学校の在り方ですか、そういうことを考えると先生方もいろんなところとの関係の中でなかなか大変。そうした中で、天童市としての特徴のある教育を示したい。なかなか難しいんですね、スマート社会と言われたって。でもおそらくプラスな社会になってきているんでしょうね。そうした中で、さらに子どもたちをのびのびと育てていく環境作りとか、こういうものを取り入れながらやっていく必要があると思いますので、ぜひひとつ、教育委員の皆さんからも御意見をいただいて、大綱に結びつけていければなと思ったところでした。皆さんの方から、そんなことについて何かあれば。

相澤教育長

今、市長さんからもありましたけれども、麴町中学校の話が出ましたけれども、あの校長というのは、学級担任をなくす、みんなで見ると、ということから攻めて、あとはテストをなくした。実は、第三中学校の時、私が教頭職のときに、町田真裕先生という二中の今の校長が研究主任で、佐藤亨学校教育課長が三年主任で、というときに、テストをなくす方向で、単元テストみたいなものを導入して。なくすことで危機感があって、生徒たちが今日の授業ではどこで測られるかという緊張感をもってやるという噂があった。でも形式だけが残ると、テストないんだ、勉強しなくていいんだ、あの先生はやれる、やれない、というのがあって。逆に私が三中に校長で行ったときにはそれを完全に元に戻したんです。やるときにはリスクと効果がある。市長さんや委員の皆さんのお話をお聞きして、市民の皆さんは具体的な見えることを求めると感じた。これは大綱なので、具体じゃなくて大まかな方向なので、こういう文章になると思うんですが、天童で

	<p>はこういう方向で動くんだ、特色があるんだということは見える方向で、というのが今日学んだことと、方向性に生かせるかなと思ったところでした。今まで諸先輩方がやっていたことと、やろうとしていることのベースには、弱い子どもも見捨てない、どんな子どもも教育現場で救うということがある。どんな子どもも伸ばしてやるんだという特別支援教育にあるベースと、ICTとか英語とか新しいことにも積極的に挑戦しながら、古くからの大事にしなければならないことは捨てないという、新しい時代をつかむ教育と、今までの人間として普遍のものを守る教育と、その二つを大事にしていくんだということ。分かりやすいとは言えないけど、それはベースにあると思う。そういうことを私は押し出していいのではないかなと。だから施策もこうするよと。命を守るから、いじめは厳しく対応するよ。ICTにも取り組むよ。英語にも取り組むよ。英語をしたからこれはしなくていい、いじめてもいいなんてことは絶対ないんだよ。「こういう意味でするんだよ」ということを。大枠として、そういうものを明確に見える大綱であるということが求められているのかなと感じたところでした。</p>
山本市長	<p>一旦ここで区切りまして、(2)の「その他」に進みたいと思います。</p>
	<p>(2) その他</p>
佐藤課長補佐	<p>それでは、「その他」ということで、事務局から何かありますか。</p>
	<p>(配布した参考資料について説明)</p>
山本市長	<p>第六次と第七次の総合計画の抜粋ということで、比較をしている資料ということですか。皆さんのほうから、これについて何かございますか。</p>
井上委員	<p>この大綱策定については、予算的な措置が必要ですよね。市長さんも教育に前向きなので、ぜひよろしく願いしたい。</p>

山本市長	他に何か意見ございますか。
本田委員	まるで違うことでもいいですか。今、世の中危ない人が多く、子どもが声をかけられたなんていうこともある。そういう時に、どこにどういう対応をするのかなという話になったんですが、「こども110番」というのがありますよね。あれはどこで管轄しているんですか。
大内次長	警察署の方で。生活安全課です。
本田委員	「こども110番」を生活安全課で管轄しているんだとしても、一旦指定したところが現状どうなっているかという確認をやっていないようなんです。うちの近くはどこにあるのかなと、見たことのあるところに聞いてみたら、認定になったときは家にいたんだけど、今はほとんど家にいないよというところがいっぱいあるんじゃないかという話になりまして。学校としても、教育委員会としても、子どもたちの通学路など、どこにあるのかということ、知っておくべきなのかなと思ったり。実際に機能しているのかということも、知らなくちゃならないのかなと。形だけ作って終わってるのかなという気がしましたので、学校現場でも関与しなくていいのかなと。
佐藤学校教育課長	学校では警察の生活安全課と連携を取って、自分の学区の「こども110番」を把握して、学区の地図の中に入れ込んで、子どもたちにも周知しております。毎年、防犯教室をする時にも、このマークのおうち、お店は、いつ助けを求めて入っても大丈夫なところだから、最寄りのそこいきなさいという指導もしておりますので、学校としては、「こども110番」のマークと言葉や機能は、十分、毎年のように繰り返し指導を徹底していると思います。
本田委員	それは、学校単位でやっているんですか。教育委員会が関与することはないですか。
佐藤学校教育課	まず、学校としては、自分の学区の中で通学路の安全指導



長	としてやっております。
本田委員	話をした地域の方は、そういうことをしているところはあるけど、うちの地域ではないよね、という話でありましたので、どういう風になっているのかなと思ったところです。
佐藤学校教育課長	なお、その点については、校長会等を通じて、各学校に確認もしたいと思えますけれども、委員会の方でも校長会と連携を取っていきます。
山本市長	「こども110番」というのは、天童市内にはどれくらいの数があるのか。（相当数あるのでは。）何か目印みたいなものがあるのか。
松村委員	我が家もです。表の玄関に下げておくんですよ。子どもたちが帰るときに見えるところに下げておいて。でも、子どもが助けてと来たのは1回だけです。助けてではなくて、おうちに帰ったら誰もいないから入れてっていうのはありました。下げておくだけでも子どもたちは安心なので。
相澤教育長	ただ、課題があって。助けてと逃げたときに近くなかったらどうするの、と子どもは考えるんです。誰でもいい、大人がいたら助けを求めていいんだよという指導もしています。逆に「こども110番」を頼っていったら留守だったと。日中はいないという家もあるんですよ。ですから、活用について課題だなと。学校ではだれか大人に助けを求めるようにと指導している。
遠藤総務部長	今の件につきましては、市の担当部署が生活環境課になりますので、そちらの方にも話をしまして、警察との連携をきちんとするようにしたいと思います。
山本市長	他にございませんか。  (意見なし)
	4 閉会